

4 シンポジウム

命をめぐる価値観の変化と看護職に問われているもの

1. 身寄りがない人々の尊厳ある死への援助活動

特定非営利活動法人きぼうのいえ理事長 山本雅基

<報告内容>

身寄りがなく、病院を退院しても行き場のない独居高齢者や経済的にも困窮して生活保護を受けるしかない人々に、人生の最後の光を見出し、尊厳ある死を迎えていただくことを目的に、2002年に「山谷地区」に開設された「きぼうのいえ」の活動報告である。

「きぼうのいえ」は、映画「おとうと」の中に出てくる「みどりのいえ」のモデルにもなった在宅ホスピス対応型の集合住宅施設である。人生の終末期に社会的に行き場がなく身寄りのない人々に対して、「身体的ケア」「スピリチュアルケア」「看取り」を実施している。入居者のスピリチュアルペインは、病気・失職・家族離散・死別・挫折・罪悪感・喪失感・病気に対する不安などさまざまであるが、その人の存在そのものが肯定されないことにある。

運営では、看取りのための社会資源（生活保護・介護保険・医療扶助・ボランティア）を活用している。社会資源の活用では、町内会の再構築が重要である。地域コミュニティに定着したホスピスケアは、地域に存在する社会資源を効率よく導入し、地域の人々の社会貢献意識、ボランティア意識を喚起させること、地域共同体をターミナルケアの視点から再構築し、新たなコミュニティケアとして再生させることである。